

「免許を返納する前」にできること

—多様な移動手段の利用を促す実践と効果検証—

これからのくらしのための
**おでかけ
準備運動**

大野悠貴（モビリティプロモーション・弘前大学大学院地域社会研究科） 中尾聡史（京都大学大学院都市社会学専攻）
田中皓介（京都大学大学院都市社会学専攻） 西堀泰英（大阪工業大学工学部都市デザイン工学科）



「車に乗れる今」から、将来の移動を考える

返納してから考える



- 移動手段の変更ができない
- 外出回数の減少
- 健康の悪化

従来の運転免許返納奨励方策では、
免許返納後に起こる様々なリスクが
考慮されていない。

返納する前に準備する



- 安全に車を運転しながら、車以外の移動手段に
使い慣れる練習（＝おでかけ準備運動）をする

目的

高齢ドライバー当事者が納得し、
安心して移動し続けられる社会の
実現を目指す。

移動の練習を促すストーリー

3人の物語から考える免許返納リスクと多様な移動手段を使いこなす必要性

トシオさん 「まだまだ運転できる」



事故リスク提示シナリオ

事故
↓
免許返納
↓
移動に困る

ヤスコさん 「人一倍、安全運転に気をつける」



健康悪化リスク提示シナリオ

サポカーで安全運転
↓
認知機能低下
↓
免許返納
↓
外出回数減少
↓
健康悪化

トシオさん 「いろんな移動手段に挑戦」



本研究が目指す姿

安全運転
↓
車以外の移動手段
を練習
↓
将来の移動に安心感

実践の内容

知る・話す・やってみる を組み合わせたワークショップ

知る 情報提供

ストーリーと
根拠データを提示



話す 対話

参加者同士で感想や
運転に対する意識を共有



やってみる 体験

公共交通やサポカー・電動カートなど
車以外の移動手段を体験



2地域で実施

富山県小矢部市

- 参加者：19人
- 70～80歳代 男性のみ
- 市内全域をオンデマンド交通がカバー
- 交通空白地 **なし**

愛媛県八幡浜市

- 参加者：26人
- 70～90歳代 男女同数程度
- 地区によって公共交通サービス水準が異なる
- 交通空白地 **あり**

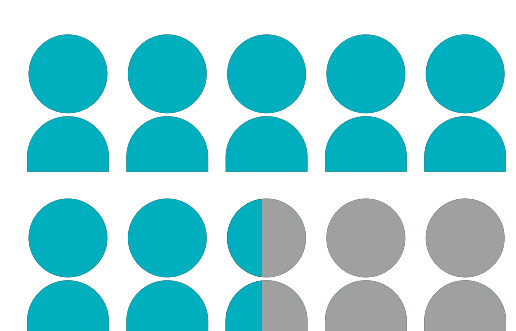
効果

事前・事後アンケートより

Q1 いろんな移動手段を使う練習をしようと思う

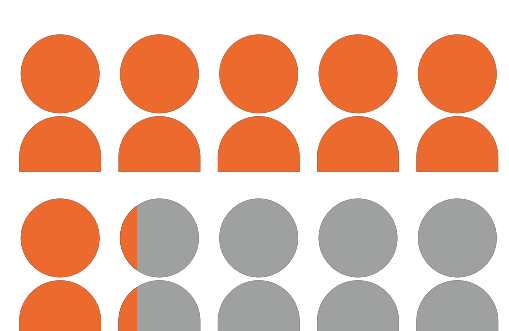
小矢部市

14 / 19人
(74%)



八幡浜市

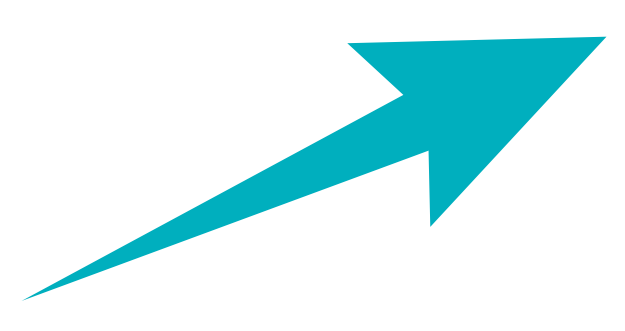
16 / 26人
(62%)



Q2 将来の免許返納に対する意識（平均値）

小矢部市

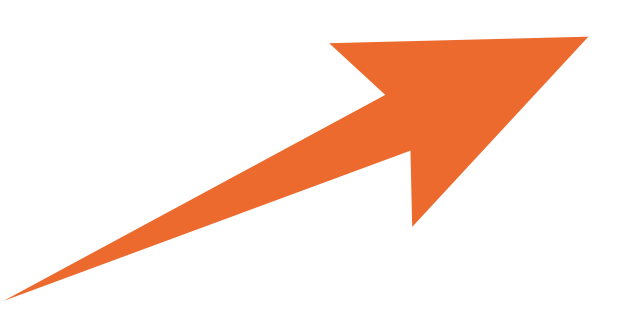
2.06 → **2.32**



「将来、運転免許を返納できると思うか」
3=できる / 2=どちらともいえない / 1=できない

八幡浜市

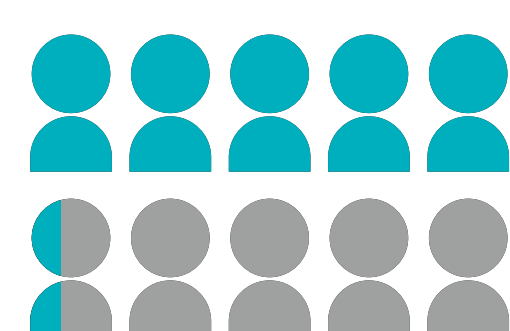
2.30 → **2.56**



Q3 免許返納後の生活不安（軽減した人の割合）

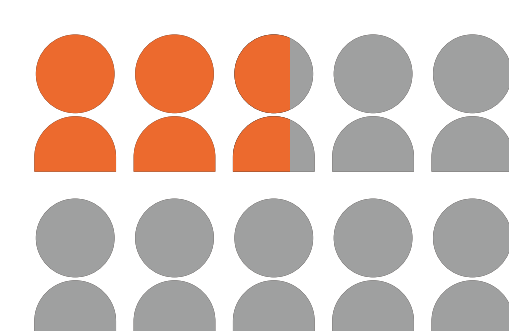
小矢部市

53%
不安が軽減



八幡浜市

26%
不安が軽減



対話による 発言内容の変化

免許を返すなんて
考えられない！

▼ 参加者同士の会話により

やっぱり練習は
大事かもなあ

意識変容を後押し
する可能性が示唆

2地域の比較から

小矢部市

53%
不安が軽減

交通空白地 **なし**

八幡浜市

26%
不安が軽減

交通空白地 **あり**

示唆

公共交通サービス水準の違いが、
返納後の生活不安の軽減度合いに
影響する可能性が示唆



結論 知る・話す・やってみる の組み合わせが有効

- 免許返納を促すだけでなく、返納前から多様な移動手段
を使う準備を促すことは、高齢ドライバーが将来の移動
を主体的に考えるきっかけとなる。

「返納する／しない」ではなく、
「これからどう移動するか」を考える